

C O N T E N T S

研究の始まり -文献と本との出会いから-
学生essay 私と図書館
書評
「いのちのバトンを受けとって-看取りは遺される人のためにも-」

P1 図書館ホームページリニューアル
P2 寄贈図書案内
P3 図書館のちからプロジェクト活動報告

P4・5
P6



研究の始まり -文献と本との出会いから-

看護管理学 教授 岩永 喜久子

私は、臨床経験を経た後、この場をいただき学生さんと共に卒研や修論に取り組んでいます。研究は、先ず文献検索から始まります。大学院生は日常の実践から見えてくる様々な課題について、4年生は興味関心がある課題について、それぞれ文献検討をしてきました。

4年生の皆さんは卒業した後、臨床での研究が始まります。私も卒後2年目から研究が始まりましたので、この機会をいただき、振り返りながら述べたいと思います。

手掛かりは、一人が探してきた英語文献の大きなエアクリナーの写真でした。新人として入職した大学病院は、1年目に3か所の病棟を回って研修するというもので、最後の病棟が2年目から所属することになった血液内科でした。一緒に配属となった3名は仲が良く、卒後研究であり同時に院内研究として課題に取り組むことになりました。病棟では、悪性の血液疾患患者さんが多く、大変な思いで化学療法を受けておられました。治療により悪性細胞は少なくなるものの、免疫機能まで低下し日和見感染により命を落とす場合もありました。そこで、感染予防の観点から何かできないかと3名で探っていた時、先述の写真に出会うことになったのです。「そうだ、このような部屋を作ろう。そして、これだけ頑張っている患者さんを、何とか感染症にならないように守ろう」と、研究目的が決まりました。

私たちは計画を師長や医局に話し、交渉したところ聞き入れてもらえ研究が始まりました。二人部屋を準備室(前室)と低菌室(無菌状態にはできないので低菌室と命名)に改装してもらい、空気清浄機のエアクリナー、作成依頼した殺菌灯ボックスなどを設置しました。定期的に病室の細菌培養とホルマリンガス消毒を行いクリーンな状態を保ち、食事は低菌食(無菌食はできないので、できるだけ付着菌の数や力を低下させる工夫をした食事として命名)とし、患者に使用する病衣・下着類・寝具類などの殺菌・消毒、掃除の仕方、部屋の出入り、具体的看護実践内容など、打ち合わせをしてシステムを作りました。低菌食は、必ず熱を加え、生ものを禁じ果物は缶詰めとするなど、給

食部門と相談しマニュアルを作成して中央配膳としました。看護実践では、精神面のサポートを強化し、マニュアルにより実践の統一を図りました。

入室の選定条件を、16歳から65歳までの急性骨髄性白血病患者でかつ初回治療か1回寛解後の治療を必要とし、入室に耐えうる精神力を持ち一般状態が落ち着いていて、身の回りのことが自分でできるものとし説明後同意を得ました。

臨床効果は、成熟好中球数が $500/\text{mm}^3$ (現 μl)以下の期間と、その間の38度以上の発熱日数を、他の病床の同疾患の同状態と比較しました。対象18名の低菌室入室者の発熱した日数は有意に少ない($p<0.01$)という結果を得て(院内誌)、院内や学会で発表しました。低菌室のクリーン状態は、細菌のコロニー数と培養の観察により、3年間感染症の原因菌が少ない状態を維持しました(院内誌)。その後、新病院の建設時は、クリーンルームを作ってもらいように働きかけ、実際に血液内科の病棟に設備を備えた部屋ができました。

そして、ドナ・ディアの『看護研究 ケアの場で行なうための方法論』(請求記号 N250-D73 配架場所 棚2右側 1階)と出合いました。この本は研究にはお作法があることを教えてくれ、他の研究に臨むにあたり私を支えてくれた1冊です。このように始まった研究を通して、臨床にある様々な問題を探求することの意味、面白さを感じると同時に、研究ができた環境や仲間・先輩方のサポートに改めて感謝しています。

長年の月日が流れ、遅々として研究を進められない自分ではありますが、これから羽ばたこうとする4年生の皆さん、実践の課題を探求し続けられる大学院生の皆さん、出合った文献や本は頼りになります。今後、研究をつむぎ、楽しみながら深めていかれますように。いい文献や本に出合えますように。



学生essay～私と図書館～



修了生

こんにちは。私は本学修士課程を修了し、現在この地域の病院に老人看護専門看護師として勤務しております。

私は、老年看護CNSコースの1期生として本学大学院に入学しました。授業を受けるだけでなく多くの課題に取り組まなければなら

ない状況でしたが、老年看護専攻の同期生も先輩もいない環境でした。もちろん先生方は熱心に相談に乗ってくださいましたが、資料探し、研究の文献検索など図書館には大変お世話になりました。

専門看護師には高度な実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割が求められています。ようやく専門看護師にはなりましたが、これらの役割を果たしていくためにはまだまだ知識を積み上げ、技術を磨いていかなければなりません。また、資格を取ってから講師の

依頼をいただく事が増えています。勤務している病院にも図書室はありますが、残念ながら最新の情報が入ることは難しく蔵書が充実しているとは言えず十分な文献を収集するのは困難です。ですから修了後も本学の図書館を頼りにさせていただいています。在学中の資料で復習をしつつ、図書館で資料を探し最新の情報を得て知識を更新していく…といったイメージでしょうか。医療も看護も日々進歩しています。それに合わせて情報も知識も更新していかなければなりません。このように講演や研修などの準備に図書館の存在は欠かせません。

現在、新潟県の老人看護専門看護師はようやく2人になりました。しかし、まだまだ少数で、先輩が居ない環境は変わりません。ですから、これからも大学の図書館を利用させていただきながら自己研鑽に努めていきたいと思っています。そして仲間がもっと増える日を楽しみにしています。



1年生

新潟県立看護大学に入学し、早いことにもう半年が経ちました。ようやく、大学にも慣れ、楽しいキャンパスライフを送ることができています。そのキャンパスライフの中で、私はよく図書館を活用します。図書館を利用する理由としては図書館には勉強する環境

が整っているということがあります。私の思う、図書館の勉強に適した環境とは3つあります。一つは、Wi-Fiを設備してあることでインターネットが使いやすくなるので、気になることや疑問に思ったことを、素早く調べることが出来ます。私も調べたいことがあるときはよく活用していて、とても満足しています。二つ目には、看護に関する書物や、授業に役立つ書物がたくさんあるので、テスト勉強や授業の予習・復習をするのにとっても助かる場所

です。最初、大学の授業を受けて、そこからどう勉強すればいいのかわからず、手探りで勉強していました。そんな時、図書館にある本を手に取り、見てみると授業に役立つことや今まで疑問に思っていたことが書かれていました。それからは授業の後やテスト勉強の時は必ず図書館で関係する本を使うようにしています。三つめは、休憩するスペースがあることです。やはり、長い間席に座り続け、勉強していると疲れてきます。そんな時に、ソファや雑誌の置いてある休憩スペースがあることで息抜きすることができ、また次も勉強を頑張ろうと思えます。この三つの良い点のほかにも、夏には冷房や扇風機を用意してあるので暑い夏にも、暑さを気にせず、快適に過ごすことができます。さらに図書館は平日午前9時から午後8時30分までやっているの長い時間利用することができます。

図書館にはこれだけたくさんの良いところがあります。私はこれからも図書館を活用して勉強を始めたこととして大学生活を楽しんでいきたいです。

書評

『いのちのバトンを受けとって -看取りは遺される人のためにも-』

写真・文 國森康弘 農文協 2012

小児看護学 准教授 大久保 明子



みなさんは、身近な人の看取りに立ち会ったことがありますか？

私は、看護師として成人の内科病棟に勤務していた時、多くの患者さんの看取りに立ちあい、そして自分の両親を看取り、そこから緩和ケアや遺族ケアに関心をもつようになりました。

今回ご紹介するのは、家での看取りの様子を臨場感あふれる写真と文で描いている写真絵本です。

本の表紙の生まれたばかりのかわいい赤ちゃんの写真とは対照的に、誰もが“みどりびと”というフレーズに興味を持ち、思わず書店で手に取りました。

この本の中から、3人の方の看取りの様子をご紹介します。

ひでさん(98歳)が亡くなる数日前に見せたしわしわの笑顔の写真にこんな言葉が添えられています。

ひでさんは、1年前まで、難病をかかえるひ孫娘のなるちゃん(20歳)の介護をしていました。ひでさんが「旅立ち」を数日後に控えたおなじころ、なるちゃんの様態もわるくなり、ふたりとも危篤で、生死の境をさまよっていました。そして、ひでさんは旅立ち、なるちゃんは一命をとりとめました。「もっと長生きしてらっしゃい」とひでさんが、ありったけの愛情をなるちゃんに手渡したあかしのようでした。

ひでさんが、どれほどなるちゃんを大切に思っていたのかがひしひしと伝わり、いのちが受け継がれていく不思議な力を感じます。

肺がん末期の鉄二郎さん(84歳)と看病のために嫁ぎ先から戻ってきた娘さん、そして往診してきた医師や看護師とともにとった写真には、こんな言葉が添えられています。

病院に入院したときは、混乱してトイレの液体せっけんを飲み干したり、そこらの布切れを食べたりしましたが、自宅に戻ってからは、すっかり落ち着きました。「家にいて幸せ」と鉄二郎さんは繰り返しました。亡くなる前の晩、まり子さんが手をにぎると、鉄二郎さんがにぎりかえし、その顔には仏のような笑みが浮かんでいました。お棺が閉じられるときも、ずっとほほえんだままで、安らかなその顔を見て、「これでよかったんだ」とまり子さんも笑顔でした。

鉄二郎さんが幸せを感じながら最期を迎えられたことは、遺された娘のまり子さんもきっと幸せだったことでしょう。幸せな死とは何かを考えさせられます。

いとさん(83歳)は、パーキンソン病と認知症をかかえています。「旅立ち」が近くなっても、家族はふだん通りの生活を送っている様子が描かれています。

仕事、学校、部活の行き帰りに、いとばあちゃんのようにを見て、声をかけます。もう言葉は出ないけど、「ありがとう。ありがとね」と聞こえる気がします。近所の人たちがあいさつに来てくれます。「わしも

後で行くから、待ってってえな」って。いとばあちゃんの息がとまりました。家族みんなでからだをふき、口紅をぬってあげます。明日からもみんなの生活は続き、そして、いとばあちゃんはいつも心のなかに生きています。

ここでは、ゲームの中のバーチャルな死ではなく、現実の普段の生活の中に自然な形で死があります。近年、自殺者は低年齢化し、凶悪犯罪も増えています。子どもたちにいのちの儚さや大切さを、言葉で伝えることはなかなか難しいことです。子どもの頃から、おじいちゃん、おばあちゃん、あるいは家族のようなペットの死に真摯に向き合うことで、いのちが有限であることを納得し、だからこそ今を大切に生きることができるともいれませんか。

いつか自分が死ぬときはどんな最期を迎えたいか、大切な人をどう見送ってあげられるかについて、考えることは大切な準備です。また、姿はなくなっても故人は心の中に生きていて、いつもつながっていると思えることは、遺された家族にとって、悲しみを癒すことになるのではないのでしょうか。

みなさんは、この写真絵本からどのようなことを感じるのでしょうか？



請求記号 490.14-Ku45-4
配架場所 棚5右側 1階



ホームページリニューアル

これまで図書館のホームページは職員が市販のソフトで作成していました。担当者が代わるとレイアウトが崩れて更新しづらいものでした。また、作りやすさを重視してフレーム構造にしたため、検索サイトから直接ページにアクセスしたユーザには他のページに遷移しづらく、ナビゲーションも無い不便なサイトでした。

学生の目を引き、分かりやすく探しやすいサイトにして、アクセス件数を増やすことを目的に、平成28年1月にリニューアルしました。

サイト管理にはコンテンツマネジメントシステム（CMS）を導入し、これにより、デザインの統一感が出て、アクセシビリティの向上が図れました。また、基調となる色を「スカイブルー」とし、以前より格段に洗練され見やすいサイトになりました。

リニューアルに伴い次のコンテンツを追加しましたので、ぜひ、アクセスしてみてください。



旧図書館ホームページ

新図書館ホームページ

1. おすすめの一冊

看護大生に教員がお薦めしたい図書を紹介するページです。大学生へ薦めたい図書は学術書・専門書だけではありません。当館発行の“新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter”でも毎号“書評”を載せていますが、そこで紹介しきれない図書もたくさんあります。教員自身が看護師を目指すきっかけになった図書、看護のいい話、号泣必至の絵本なども紹介しています。本の内容や教員名から選ぶこともできます。教員からのお薦めコメントは100字程度ですから気軽に読んでいただけます。興味が沸いたら、コメント横の表紙画像をクリックしてください。WebOPACで配架場所が確認できます。

今後も数ヶ月に1度、新たな図書を追加していく予定です。



2. 新潟県災害看護文献情報

平成16年からホームページ上で災害看護文献情報を掲載してきました。当初は中越大震災関係の文献を中心とした所蔵図書や医中誌Webの検索結果をリストで公開していました。その後も全国で震災が相次ぎ、範囲を広げ震災関連全体の保健医療福祉の文献を掲載してきました。しかし、文献量も増え、かつてよりも文献情報の入手が容易になってきました。そこで公開から10年以上を経過し、当館で公開する意義を見直した結果、焦点を絞り“新潟県”に関連した文献情報に限定して公開するよう変更しました。

これからも引続き新潟県を中心とした災害看護・震災関連図書の入手に努めていきます。



3. 紀要

ホームページ内に紀要のページを設けました。本学紀要はにこなース(新潟県立看護大学リポジトリ:<https://niconurs.repo.nii.ac.jp/>)で全文公開しています。こちらのページでは、にこなースへのリンクと紀要に関する規程等(紀要規程、紀要投稿要項、投稿チェックリスト等)を掲載しています。



4. よくある質問

今まででありそうでなかったページとして、文献検索や事項調査以外で、図書館に日々多く寄せられる利用上の質問・疑問・要望に対してお答えするページを設けました。画面上部のメニュー>申込・問合せにマウスを合わせるとプルダウンメニューに「よくある質問」が出てきます。「雑誌の最新号はどうして貸出できないのですか」「小説を増やして欲しい」「同時アクセス制限があるのはなぜですか。同時に何人でも使えるようにしてください。」などにお答えしています。

5. ページ内検索

画面右上にページ内検索窓を設けました。今回のリニューアルにあたり、当館のウェブサイトはページ数・情報量が多すぎるという問題があることが分かりました。メニューだけではナビきれない情報がありますので、こちらから検索してください。今後もページの精査には努めてまいります。



このほか、アクセス方法、サイトマップ、プライバシーポリシー、お問合せフォームも追加し、ウェブサイトとして最低限の体裁を整えました。また、開館カレンダーをサイドメニューに直近2か月分掲載するようにしました。OPAC検索窓も常にサイドに表示されています。リニューアル後は、画面表示をレスポンス対応としました。そのためモバイル表示ではパソコン画面とは異なり、OPAC検索窓が一番最初に表示されます。パソコン上でも画面を縮小表示した場合に同じように表示されます。

まだまだウェブサイトとして十分ではありませんが、これからもページの充実を図ってまいりますので、図書館のウェブサイトの情報発信についてのご意見・要望がありましたらお問合せフォームよりお寄せください。

寄贈図書 (平成28年7月～平成28年12月)

下記の著書をご寄贈いただきました。

敬称略・受入日順



	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学 外	風見 梢太郎	再びの朝	2015	913.6-Ka99
	河村 一樹	これからの大学の情報教育	2016	377.1-Ka95
	丸山 柊子	障害受容はいのちの受容 頸髄損傷からの社会復帰	2016	N049.3-頸椎損傷
	宮原 玲子	ORナーズ	2014	N049-N28
	宮越 馨	未完 地方からの国づくり 新幹線は来たが…	2016	318.2-Mi76
	小坂 直樹	あんやと!ばあちゃん	2014	726.6-Ko82
	大竹 芳夫	文をつなぐ シリーズ英文法を解き明かす: 現代英語の文法と語法	2016	835-O82
	小埜 裕二	小川未明郷土小説名作選 山上の風・風穴	2016	913.6-O67
	宮本 順伯	一匹狼の国 世界の喫煙規制を検証する	2015	369.81-Mi77
	吉野 直人	HIV母子感染全国調査研究報告書 平成27年度	2016	493.878-Y92-15

ありがとうございました。

図書館のちからプロジェクト活動報告

昨年度より始動しました「図書館のちからプロジェクト」ですが、今年度もさらなる学生の図書館利用率向上にむけて取り組んでいます。そのプロジェクトの一つであるDVD上映会についてご紹介します。

この上映会の目的は、図書館所蔵のドキュメンタリーDVD鑑賞を通して、看護職の能力として必要な他者を知ること・理解すること・今できることを考えるきっかけを作ることです。学生自治会主催の桜蓮祭の企画の一つとして参画しました。

当日は『音のない3.11 被災地にろう者もいた』『亀姉妹』『忘れてほしゅうない』の3本のDVD上映会を行いました。18名の方々に鑑賞していただきました。上映したDVDの一つ『亀姉妹』は、障がいをもつ3名の女性が自立をめざしお互いを支え合いながら一緒に暮らしている日々を追ったドキュメンタリー作品です。今回上映した3本のDVDはいつでも図書館内で視聴可能です。是非図書館に足を運び、視聴していただければ幸いです。

桜蓮祭での上映会をはじめとする「図書館のちからプロジェクト」を通して、1人でも多くの学生が書籍や視聴

覚教材に触れ、対象(患者)理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献する活動を今後も続けていきたいと考えております。

「図書館のちからプロジェクト」メンバー

野口裕子・山田真衣・高塚麻由・吉原貴子



『音のない3.11 被災地にろう者もいた』

請求記号: 369 配架場所: 視聴覚資料コーナー

『亀姉妹』

請求記号: 369 配架場所: 視聴覚資料コーナー

『忘れてほしゅうない』

請求記号: 498 配架場所: 視聴覚資料コーナー



新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter

第40号(平成28年12月発行)

編集: 新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

URL: <http://lib.niigata-cn.ac.jp/>

発行: 新潟県立看護大学図書館

TEL: 025-526-1169

E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

新潟県立看護大学図書館 Library Newsletterは、新潟県立看護大学リポジトリ(にこナース)で公開しています
<https://niconurs.repo.nii.ac.jp/> ※H27.12.1よりURLが変更になりました